

第4回高専・海事教育フォーラム

平成31年2月7日(木)、東京海洋大学越中島キャンパスにおいて、「第4回高専・海事教育フォーラム」を開催した。このフォーラムは、平成30年度に採択された独立行政法人国立高等専門学校機構の「KOSEN(高専)4.0 イニシアティブ」支援対象事業:「新時代に活躍できる海事人材の産学連携による育成～新教育システム実装フェーズ～」(富山高専より申請)と「KOSEN(高専)と産業が連携した、次世代海洋人材の発掘と確保」(広島商船高専より申請)の両事業の成果について、多くの海事関連団体、海事関連企業、海事教育機関等に広く周知することを目的として開催した。

フォーラムには国土交通省、文部科学省、独立行政法人国立高等専門学校機構をはじめ、商船学科を有する5高専(富山高専、鳥羽商船高専、広島商船高専、大島商船高専、弓削商船高専)、海事関連団体、海事関連企業、海事教育機関等から計157名が参加した。

フォーラムでは独立行政法人国立高等専門学校機構理事長 谷口 功 氏、国土交通省海事局海技課船員教育室長 川路 勉 氏、文部科学省高等教育局専門教育課長 小幡 泰弘 氏の挨拶の後、両事業とそのサブプロジェクトの担当者等から取組の内容や成果について発表が行われた。また、両事業の4連携機関(日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会)と5高専のパネリストによる、「10/20年後に活躍する海事・海洋人材を育成するために私たちができること」をテーマとしたパネルディスカッションも行われ、大変有意義なフォーラムとなった。

両事業および今回のフォーラムを通して得た意見やネットワークを活かし、今後も海事教育の充実と拡大に向けた取り組みを、益々持続発展させていくことが期待される。

第4回 高専・海事教育フォーラム 次第

- 開会 富山高専 賞雅校長
- 挨拶 国立高等専門学校機構 谷口理事長
- 挨拶 国土交通省 川路船員教育室長
- 挨拶 文部科学省 小幡専門教育課長
- プロジェクトの概要 富山高専 山本教授
- 「新時代に活躍できる海事人材の産学連携による育成～新教育システム実装フェーズ～」報告
富山高専 向瀬准教授、弓削商船高専 山崎講師、
鳥羽商船高専 窪田教授、弓削商船高専 村上教授、
大島商船高専 岩崎教授、広島商船高専 大山教授
- 「KOSEN(高専)と産業が連携した、次世代海洋人材の発掘と確保」報告
広島商船高専 村岡准教授
- パネルディスカッション「10/20年後に活躍する海事・海洋人材を育成するために私たちができること」
日本船主協会 田中常務理事、全日本船舶職員協会 土屋専務理事、
全日本海員組合 池谷国際局長、国際船員労務協会 井上事務局長
他5高専教員6名
- 今後の事業展開について 富山高専 山本教授
- 閉会 広島商船高専 辻校長



挨拶：高専機構
谷口理事長



挨拶：国土交通省
川路船員教育室長



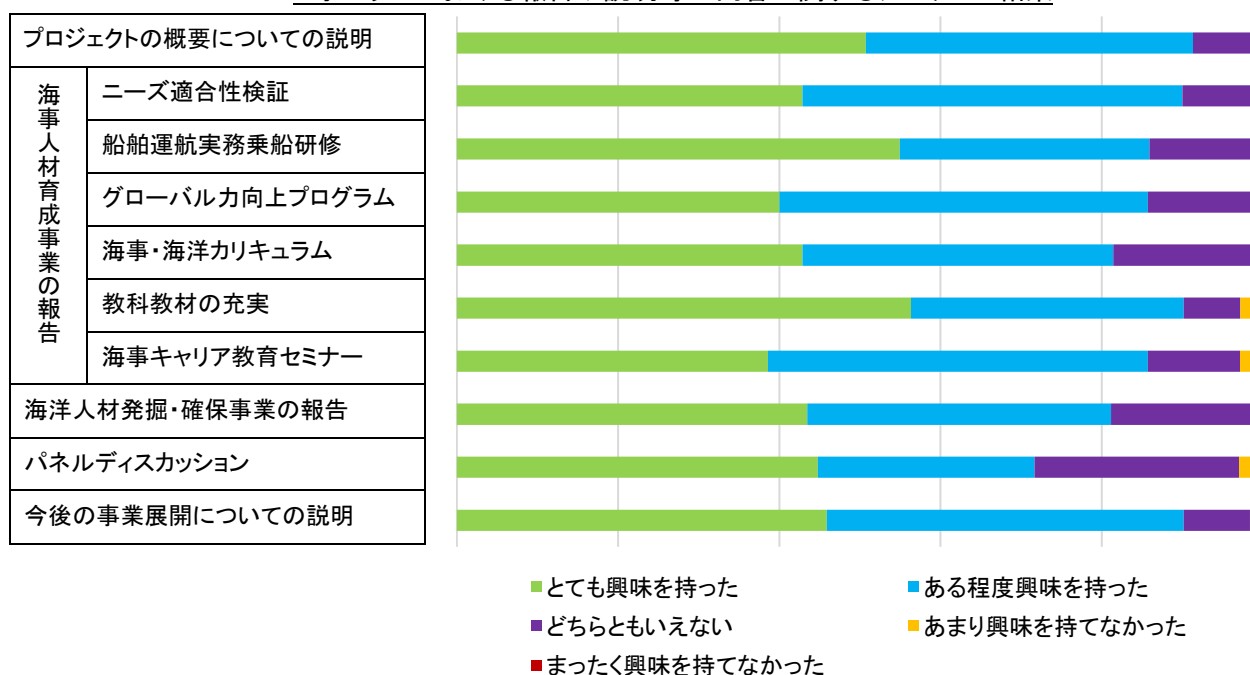
挨拶：文部科学省
小幡専門教育課長



パネルディスカッション

当日、参加者を対象に実施した本フォーラムに関するアンケート結果、ご意見・コメントを整理して以下に掲載する。尚、大変多くの貴重なコメントを頂戴したが、紙面の都合ですべて掲載できなかったことをお詫び申し上げます。

フォーラムにおける報告や説明等の内容に関するアンケート結果



フォーラムにおける報告や説明、プロジェクトの今後についての、ご意見やコメント等(抜粋)

- 産学連携されており、とても素晴らしいと感じました。
- 開かれた商船高専とのイメージを持ちました。ぜひ継続してください。
- 有意義なプロジェクトであり継続してやっていただきたい。
- 本プロジェクトは絶対必要。継続を産学官の連携で行うべき。
- 今回の発表で知った最近の商船高専の取り組みは、入口側、出口側のニーズを追求した大変興味深い内容だと感じました。
- 各校の活動報告を拝聴させていただき、海洋教育の方向性と課題がよく解りました。若年船員確保には更に官学労使協調の必要性を感じました。
- 高専と連携機関と協力して海事人材の育成を海運界全体で取り組んでほしい。四方を海で囲まれた日本にも関わらず、政府、企業が特に海事人材の育成をやや軽視しているような感じがしているので、将来を見据えて取り組んでほしい。
- 中等教育と高等教育の両側面のアプローチが垣間見えて興味深かったです。またそれを一貫教育としての実践が高専教育の特徴だと感じました。
- 各校先生方の努力に敬意を表します。頑張ってください。また、船員/海技技術者の仕事は大変やりがいのある、且つ興味もある仕事なので、若い人の育成に自信をもって続けてください。
- 教員乗船研修及び英語研修は継続してほしい。
- 内航船員育成の位置づけを明確にした方がよいと思います。
- 高専の10～20年後の展望について、困難と理解せざるを得ない。
- 教育現場の人材(有資格者)確保も困難になっている。産業界への人材確保 育成の大きなネックとならなければよいが。
- パネルディスカッションは広く意見が聞けてよかった。新しい海技者像を具体的にイメージできるように、また、それを広く示すことで人材発掘に活かしたい。
- パネルディスカッションの際、先生方のご意見をあまり聞くことができなかったのは少し残念でした。
- パネルディスカッションの中で、テーマについてパネリスト/高専教育の深い議論が開きたかったです。
- パネルディスカッション、時間も含めて方式など見直すべき。

商船学科、あるいは、高等専門学校についての、ご意見やご要望等(抜粋)

- 社会から見ると商船学科は難しいところに置かれているかもしれませんが是非がんばってほしいです。
- 現場に触れる機会が増えることを期待いたします。
- 内航海運業界へも目を向けていただきたい。
- 商船教育全体で見ると現在の航海訓練所の教育内容は根本的に見直すべきだと思います。特に、運航と操縦に片寄ったあり方は、海運の目的である貨物の運送を実習で取り上げるべきだと思います。
- 商船学科の定員増を望みます。
- 早期合併して、効率化をはかるべきだ。
- 北海道、東北はどのように対応していくのでしょうか？

(文責:富山高等専門学校、向瀬 紀一郎)